第4次厚直町総合計画 宝施計画シート

事業名	暮らしの安心サポート事業		担当課	担当な	ブループ	作成者(職・氏名)		実施計画年度(期間)		事業評価対象年度	l
尹未行	者りしの文心ッハード事業	4	産業経済課	41 経済	済グループ	主任・森田 綾		R 6 年度 (R6 ~ R8)		R 5 年度	Ī

1 基本事項

エアテベ															
	事業開始年度	平成 2	28 年度		事業主体		会計区分		予算科目						
事業区分	尹杲用如牛皮	平成 2	-0 -412						項	目	事業1	事業2	性質別経費		
	事業終了年度	令和	7 年度	7	その他	1	一般	07	01	01	0898	001			
事業の性質	法令に基づかない自	主的事業		条例等の有無							有				
根拠法令 • 例規計画等	暮らしの安心サポー	卜事業補助金	交付要綱												
	基本目標	3 みのり豊かなあつま													
	基本施策	12	商工業の振	興											
総合計画	施策項目	121	商工業活性化への支援												
₩W 🗀 - I 🔟	復旧・復興計画	99	その他												
	総合戦略	99	その他												
	厚真町強靭化計画	1741	地域との連	携によ	る支援体制の整備										
	大項目	9	その他												
政策展開方針 (R2~R6)	中項目	9	その他												
	施策項目	9999	その他												

2 事業概要 (Plan)

事業の目的	高齢化及び過疎化の進行により近隣に店舗がない、又は店舗から遺隔地であるため、日常 生活に必要な食料品等の購入が困難な地域に生活する高齢者等(以下「買い物弱者」とい う。を主な対象とし、見回り機能を有して移動販売を行うものに対して、その費用の一部 を補助することで、買い物弱者の買い物機会の確保や生活維持向上を図ることを目的とし ている。
事業の内容(手段・方法等)	【事業者の選定】 毎年、公募により町内事業者を募集し、次年度補助する者を1社決定する。次の条件を付与する。 (1)町から車両を1台貸与する(令和6年度に新車両購入) (2)移動販売時に利用者の見守りを実施する。 (3)補助の限度額は、3,300千円とする。
	【周回頻度】毎週月曜日から金曜日までの毎日、地区ごとに曜日を設定し、移動 販売を行う。原則、週一度以上訪問することとする。
対 象	町内買い物弱者(57名)※年度により増減幅あり
成果目標	一人当たりの購買額の増加(売上高/利用者数) ※「利用者数の増加」=「買い物調者の増加」となるため、安易に利用者の増加を望む事業ではないため、本事業が与える域内循環効果が増加しているかを判断する指標として、1人あたりの購買額を成果目標とする。

3 実施結果 (Do)

出点・エロ

① 事業費										単位:千円
事業費の推移	H28(前期1)	H29(前期2)	H30(前期3)	R1(前期4)	R2(前期5)	R3(後期1)	R4(後期2)	R5(後期3)	R6(後期4)	R7(後期5)
	決算・決算見込み・予算・計画	決算・決算見込み・予算・計画	決算・決算見込み・予算・計画	決算・決算見込み・予算・計画	決算・ 決算見込み ・予算・計画	決算	決算	決算	予算	計画
事業費						3,089	3,275	3,133	8,912	
特									0.700	
定 道支出金 財 町債									2,700	
源るの他							3,275	3,000	6,000	
一般財源						3,089	0,219	133		
人件費 (@4,000*時間数)						138	138			
積算根拠						料77 車両借上料109 暮らしの安心サポート事 業補助金2900	消耗品) 152 車両保険料・車検手数料 108	暮らしの安心サポート事 業補助金2900	車両維持需用費3車両保険料 75 車両借上料37 暮らしの安心サポート事業補助金3300 車両購入費5,500	
主な年次計画(取組)										
ヒアリング 指示事項 ※企画調整G記入 欄										

② 実績・成果

	指標名称(前期)		H28(前期	1)	H29(前期	2)	H3O (前期3)		R1(前期4)		R2(前期5)		R3(後期1)		R4(後期2)		R5(後期3)		R6(後期4)		R7(後期5)	
			数量	単位	数量	単位	数量	単位	数量	単位	数量	単位	数量	単位	数量	単位	数量	単位	数量	単位	数量	単位
		目標	60	人	60	人	60	人	60	人	60	人	60	人	60	人	60	人	60	人	60	人
主た	利用者数	実 績	69	入	69	人	66	\succ	43	人	57	\forall	57	人	60	人	57	人		人		人
活		達成度	115.0	%	115.0	%	110.0	%	71.7	%	95.0	%	95.0	%	100.0	%	95.0	%	0.0	%	0.0	%
動指標	※数値化できない活動内容や指標の変更等について記載する 利用者利便性の向上を図る				•													車両の更新(移 売事業専用にカ マイズした車両 入)	コスタ			
	一人当たりの購買額(地域循環額)	目 標	0	千円	115	千円	117	千円	120	千円	122	千円	124	千円	127	千円	130	千円	132	千円	135	千円
主	※売上高/人数	実 績	0	千円	115	千円	92	千円	144	千円	124	千円	123	千円	129	千円	149	千円		千円		千円
な成	※目標値は対前年比2%の増加	達成度	-	%	100.0	%	78.4	%	120.4	%	101.6	%	98.8	%	101.6	%	115.1	%	0	%	0	%
果指標	※数値化できない成果や指標の変更等について記載する		※データがいため、実 未記入とし す。	績																		

4 事業の評価 (Check)

評価項目	評価の視点	評価結果	説明
妥当性	実施主体・目的・対象・手段等は公平かつ妥当か?	А	①実施主体→公募により決定しているかつ町内事業者であり妥当である。 ②目的・対象→買い物弱者の支援であり、営利を主としない、行政が行う事業としては妥当である。 ③手段等→公募で募集することにより公平性を確保。
有効性	期待された成果が得られたか?	В	買い物弱者の支援という側面では、有効的であるかつ、期待された効果(買い物弱者への買い物支援)は得られている。
効率性	コスト面からみた費 用対効果は適正か?	В	①福祉的目的(買い物弱者の支援)としては、手に取って店舗同様の買い物ができるかつ、見守り機能により万が一の事態に備えることができるので、公的扶助サービスとしては買い物と見守りを一体的にできるため効果的である。 ②経済的目的(域内循環の増加)としては、厚真町の事業者が公募により選ばれており、消費活動により域内循環に寄与しているとは思うが、町から運営の補助金が入っていることから、本活動により民間事業の活性化が図っているとは判断しづらい。

※評価結果は、A:妥当である B:概ね妥当である C:あまり妥当でない D:妥当でない で評価する

5 今後の方向性・課題・改善提案等(Action)

	T 040 440 14544				
予算	継続(現状維持)	サービス	継続(現状維持)	方向性	現状維持
理由	が望ましい。利用者 ているということに	が増加して なるため、+	こ必要な事業であるこ 本事業が盛り上がるこ ナービスの質や使い服 の拡大は望ましくない	とは、買い 手が向上す	物弱者が増加し
	する方法はあるものと思たいというニーズがありたいというニーズがありた。 (資金の域内循環がてとって、直接見て買いがませる) では、 (本語の域解析 まれることもあり、町の今後、他の町内事業者に	思料、利用者に ○ 、利用者に ○ がるいるのででである。 ○ がるいるのでである。 ○ ではいるできるできます。 ○ ではいるできます。 ○ ではいるできます。 ○ ではいるできます。 ○ ではいるできます。 ○ ではいるでは、 ・ ではいる。 ・ ではいるでは、 ・ ではいるではいるでは、 ・ ではいるではいるでは、 ・ ではいるでは、 ・ ではいるでは、 ・ ではいるでは、 ・ ではいるではいるでは、 ・ ではいるではいるではいるではいるではいるではいるではいるではいるではいるではいる	いるが、小売業の利益率 継続は難しい。]りごと支援などにより、 を共助で補える)町にな	1グ販売ではな 質)が下がると)店舗近くに居 d) の範疇にあ は低いかつ、 社会課題の解	く、直接見て買い きえられる(ま 住できない方に るとも考える。 積載物のロスが生 決が図られ、買い

※予算・サービスは「継続(拡大・現状維持・縮小)」および「終了」から、方向性は「拡大」「現状維持」「縮小」「終了」から選択する。

6 内部評価(本欄は、内部評価委員会で使用するため事業担当課は入力しないでください。)

	予算	継続(現状維持)	サービス	継続(現状維持)	方向性	現状維持	意見	既存の福祉サービスとの連携・情報共有が必要。他の施策・民間サービスと連携について今後要検討。
--	----	----------	------	----------	-----	------	----	--

7 外部評価(本欄は、外部評価委員会で使用するため事業担当課は入力しないでください。)

1	<u> </u>	予欄は、 外部評価安良式 (使用するにの)争未担当味は入力しない (へにさい。)								
	評価実施年月日	R 7 年 1 月 28 日 <mark>予算 </mark> 継続(現状維持) <mark>サービス</mark> 継続(現状維持) <mark>方向性</mark> 現状維持								
	のいわゆる「買い物弱者」となる方の日々の生活支援に加え、高齢者や障がい者の「見守り機能」 を有する事業である。 ▶以上から、予算・サービス・方向性を現状維持のうえ事業を継続することが望ましい。									
	その他意見 (個別意見)	○本事業が、既存の共助型サービスの妨げや重複とならないよう工夫が必要であると思われた。 ○利用者属性を把握・分析することで、より効率的な事業展開に繋がるのではないかと思われた。 た。								

8 外部評価に対する町の考え方

□答年月日 R 7年 3月 6日

○予算・サービス・方向性ともに、現課及び内部評価委員会と同じ理解(現状維持継続)と

なりました。 利用者や利用候補者にとって、利用価値の高いサービスとなるよう、行政及び関係事業 者が連携・情報共有した事業展開を心がけてまいります。